

あぜ上三和子議員



国保料の値上げはやめよ

あぜ上議員は、「この数年で受け取る年金は減り、負担は住民税も介護も入院時の食費負担や居室費などの保険外負担も増えて四重苦にも五重苦にもなっている中で、負担増は許されない」と、値上げに反対し、今まで減らしてきた国の支出金こそ引き上げるべきだと迫りました。

斉藤信行議員



就学援助の拡充を

斉藤信行議員は、子どもの貧困化が懸念されるもとで就学援助の拡充を求めました。江東区の就学援助の認定基準は、所得が生活保護基準の1・18倍となつていますが23区平均は1・2倍、台東区、中野区などは1・26倍となつています。本区も1・2倍に引上げるべきと求めました。学務課長は「近隣区が1・15倍なので今まで通りでやる」と答弁。

予算委員会の論戦



きくち幸江議員



「学童クラブ」の存続・拡充を求める

「学童クラブ」を、全児童を対象とした「げんきっず」事業に一本化しようとしています。菊池議員は「児童福祉法に基づく事業であるのに、他の青少年対策事業への支援、こうした施設に仕事を発注した企業には税制優遇する等、支援促進を求めました。区は、「作業所の物品活用や役員契約など、国からも促進の通達がきています」「税制優遇策を周知する」と答えました。

正保みきお議員



障害者作業所などの仕事確保に支援を

障害者作業所・授産施設では景気の急速な悪化で仕事半減し、利用者一人当たりの工賃が激減しています。正保議員は、仕事確保

赤羽目たみお議員



赤羽目たみお議員

商店街支援に力を尽くせ!

空き店舗対策とはなっていない。赤羽目議員は、区の認識を質し、家賃補助の増額など空き店舗対策の改善を求めました。また、商店街の経営に大きく影響している大型店について、区として規制や調整ができるように法律を改めるよう政府に求めるべきと質しました。

大つきかおり議員



豊洲駅の改札口の増設を

大つき議員は、相次ぐマンション建設で利用者が急増しています。今後、今の一か所の改札口だけでは対応できなくなること

すがや俊一議員



後期高齢者医療制度は廃止を！差別医療は許されない

政府は、後期高齢者医療制度の廃止を求める世論に押され「高齢者医療制度に関する検討会」を

そえや良夫議員



介護保険制度の新たな改悪中止を

賃金を引き上げ、介護人材を確保するためとして、4月から介護報酬が改定された。ところが23区のデイサービスの報酬は逆に引き下げ、特養ホームでも効果は施設ごとにまちまち。また新しい認定基準では大量の軽度変更が見込まれ、介護事業者、利用者双方に重大な影響が出ると指摘。国庫負担による報酬の底上げ、新認定基準の実施凍結と見直しを国に求めるよう迫りました。

障害者自立支援法の見直しを

日本共産党提案の意見書が可決

日本共産党と公明党のそれぞれが提出した「障害者自立支援法の見直しを求める意見書案」は、意見書調整会議で協議した結果、両案の一本化が整い、三月三十日の本会議で可決されました。同意見書は、現在、政府等で抜本的見直しを検討されているが、「課題解決には至っていない」ことを指摘し、利用者負担の問題など、障害者団体等の声を十分に反映するよう国会及び政府へ強く求めました。

立ち上げ見直しを検討しているが、「制度の存続」が前提となっている。75歳以上の入院患者退院時の診療報酬加算や終末期診療中止による報酬加算等々、差別医療の温存は許されず、区は政府に對し、制度の廃止を求めて当然と迫りましたが、区は応じませんでした。